校友時報

昭和61年12月18日
編集人兼発行人
秋田県能代市高塚2番1号
秋田県立能代高等学校新聞部
印刷所　㈱大勝堂印刷

国立大入試新制度
私大入試に余波

受験・就職シーズンも大詰めの季節を迎えた。今回の3年部の進路調査では、進学では新制度入試が、様々な現象を受験戦線にもたらしていること、就職では、県内外とも依然「狭き門」であることがわかった。

―就　職―
厳しい民間／公務員は健闘

進学

今年の大学受験は、例年にない厳しさが予想される。今年度から採用される新受験制度によって、国立大学の複数受験が可能となったが、他方、昨年度までは共通一次後の自己採点により決定していた二次受験校も、一次受験前に決定せねばならなくなった。また成績上位者の複数出願のために、いわゆる「玉突き現象」が起こり、地元大学を自機としている者などがその影響を受けるなど、新制度は、成績上位者に優位をもたらしかねないという皮肉な状況を呈している。

さらに、これまでも難しいときれていた国私併願についても今回の改革の影響は大きく、国公立大学の受験者が中堅以下の私立大学を確保安全圏に選ぶ、いわゆる安全志向が強まり、それらの大学での競争がますます激化するものと見られているため、国立私立ともに、難化は避けられないものと思われる。

就職

今年の求職希望者は二〇名、昨年より一クラス多いが、ほとんどが公務員希望である。受験者数は国家公務員が延べ一三六名、地方公務員（県職員・市町村関係）が延べ一〇六名。そのうち、本校の一次試験合格者は国家公務員四一名、地方公務員一三名となっており、昨年までより大幅に増加しており健闘している。

一方、今年の民間企業の求人数は県内四社、県外三二社あったが、ほとんどが現業・販売関係で、本校生徒希望の事務系が非常に少ない上女子の求人がほとんどないという厳しい状況である。現在、民間企業の内定者は一六名となっている。

▷進学・就職状況表◁

進学状況（9月現在）

	男	女	計
国立	70	23	93
私立	90	14	104
国・私併願	57	16	73
短大	1	9	10
専修	9	4	13

○最終共通一次出願者数
176名
（去年より32名増加）

就職状況（12月現在）

		男	女	計
公務員	国家	38	3	41
	地方	20	3	23
民間	市内	0	0	0
	県内	2	0	2
	県外	13	1	14

部説

「ノストラダムスの大予言」――一九九九年七月の人類絶滅を予言した、この予言を皆さんは覚えているだろうか。今、各界の有識者達の間で、この予言が肯定化されつつあるという。

実際、それを裏づけるかのように、米ソ首脳会談はレイキャビクにおいては決裂し、イランへの軍事密輸発覚で大きく政治がゆらぎ始めた米国と、切れ者のゴルバチョフを迎えたソ連は、まだ静かにに「核の恐怖」へ世界を導きつつある。――「一九九九年に関する予言」はウソとは言えない事態にあるのです。その他にも、エイズ・るものだという。欧米諸国では、中近東・生命操作など、二十一世紀は、人間が自ら作りだした結果に常におびやかされるようになるでしょう。今の若い人達にとって二十世紀は、まさに「核」そのものなのです。――戦争特集番組で米国の大学教授は語っていた。

二十一世紀は警告する

ところが、その「核世紀」なる二十一世紀を生きる、当の若い世代の私達ときたら、エイズも、核なので戦わずして降伏する。」と答えたという。そこには、「戦争なんかおきるわけがない。」という安易なあまえと、「日本がなくなってもかまわない。」といった、政治的無関心が通じ、民族的無関心に陥りつつある、日本の若い世代の姿が現れていると言えるのではないだろうか。今はそれでもいいかも知れない。だが私達が大人になり「核世紀」・二十一世紀を背負うようになった時、そんな意識で世界の厳しい情勢を切り抜けられるのだろうか？

「新聞は一面だけでも読む。」今こういった態度が私達に必要になってきているのではないだろうか。「井の中のかわず」ではなく、平和な日本だけが世界だと思っているような甘い感情を捨てない限り、私達は二十一世紀のパイオニアたる資格は持てないであろう。

時生徒の約60％が「戦っても無駄なので戦わずして降伏する。」と答えたという。そこには、「戦争なんかおきるわけがない。」という安易なあまえと、「日本がなくなってもかまわない。」といった、政治的無関心が通じ、民族的無関心に陥りつつある、日本の若い世代の姿が現れていると言えるのではないだろうか。今はそれでもいいかも知れない。だが私達が大人になり「核世紀」・二十一世紀を背負うようになった時、そんな意識で世界の厳しい情勢を切り抜けられるのだろうか？

「新聞は一面だけでも読む。」今こういった態度が私達に必要になってきているのではないだろうか。「井の中のかわず」ではなく、平和な日本だけが世界だと思っているような甘い感情を捨てない限り、私達は二十一世紀のパイオニアたる資格は持てないであろう。

季節の窓

しずかなる
峠をのぼり
来しときに
月のひかりは
入谷をてらす

斎藤茂吉

文化実る秋
―文化部活動あれこれ―

▽劇演　秋季発表会

九月二十八日（日）二ツ井町福祉会館で秋季演劇発表会が催され熱の入った演技で、観衆を終始魅了した。今回は能代商業、二ツ井高校、能代工業、能代北高、本校が日頃の練習の成果を披露、その中に、本県に初出場の能代商業を除く四校が全県出場を目指し厳しい自然を愛する心を題材にした「花妖」を演じその幻想的な舞台は、客席までも不思議な世界に誘いこんでいた。しかし、照明、衣装、演技などの今後の課題を残した。講師の先生達のお助言をまえて、来年もがんばります。と語られ、その言葉には、次への意気ごみが感じられた。他に能北高は「柳」を、能代工業は「潜函」、能代商業は「奇妙な国への旅立ち」、二ツ井高校は「ともだち」をそれぞれ熱演したが、結局一人だけで演じた、工業の「潜函」が、うち高校演劇協議会に加盟しない商業を除く四校が全県出場を目指し厳しい自然を愛する心を題材にした「花妖」を演じその幻想的な舞台は、客席までも不思議な世界に誘いこんでいた。しかし、照明、衣装、演技などの今後の課題を残し、全県への出場権は得ることが出来なかった。顧問の武野幸先生は「生徒達はみんながんばりました。講師の先生達のお助言をまえて、来年もがんばります。」と語られ、その言葉には、次への意気ごみが感じられた。他に能北高は「柳」を、能代工業は「潜函」、能代商業は「奇妙な国への旅立ち」、二ツ井高校は「ともだち」をそれぞれ熱演したが、結局一人だけで演じた、工業の「潜函」が全県出場を果たした。

不思議な世界をかもし出す舞台

▽術　美　全県総合美術展

「第十九回全県高校総合美術展」が十二月八日から秋田市県立美術館で開催された。入選者は次の通りである。

▽絵画部門

「骨のある部屋」　三C　池端　正樹

「TWILIGHT」
―夜明けの中から―　三D　佐々木　晋

「失われた時間（とき）」　三F　佐々木正福

「植物の間」　三H　平野　幸雄

「休日」　一A　鈴木さえ子

「田田兵の家」　一G　児玉　美香

▽写真合同講習会

十一月二十九日と三十日の二日間に渡って、本校、北高、工業の写真部が合同で、カメラマンの宝田久人氏を講師に招き講習会を行った。宝田氏は、プロカメラマンとして世界百数十ヶ国を周る一方、国内では数々の写真展の審査員を務め、全国の学生の指導も積極的に手掛けている。

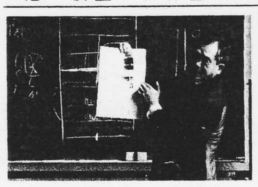
今回の講習会では、初日に文化会館で写真撮影についての講義、次の日は能代公園や砂防林の大森神社周辺で、実際にカメラを持って撮影指導が行われた。

この講習会の模様は、来年一月二十日発売の「月刊カメラマン」に掲載される予定である。

▽聞　新聞県北新聞研修会

十月二十日（月）、第三回県北地区新聞講習会が本校の視聴覚室で行われた。午前中は、講師に招いた秋田魁新報社編集委員、杉渕広氏の新聞製作についての講演に各校の新聞部員たちは熱心に聞き入っていた。午後からは、二班に分かれて、各校それぞれの新聞についての合評会が行われ、活発な意見交換がなされた。この講習会は高校新聞の内容と技術の向上を図るために開催されたものである。

なお今回は本校、花輪高校、大館桂高校、二ツ井高校、能代商業高校、能代北高校が参加した。



熱心に講演する杉渕先生

朝のTVタイム減少?!
日課表改定、能高生の朝早まる

十一月十日より日課表が変更になり、SHRが毎日実施されることになった。四十九年に現在地へ校舎が移転してから、通学列車等の事情による週二回日課表上は設けられていたが事実上有名無実となっていた。しかも、本校の始業時間も県内では最も遅い部類に入っていた。その延長で単純に授業の終了時間を遅らせると、部活動や補習などに影響することや、昼休みを含めその休み時間の長さのかみあいなどから、SHRは実施困難な状態となっていた。そのため、諸連絡なども放送に頼らざるをえないため全校生徒に明確に連絡などが行き渡らないことも多く、一方通行になり、問い合わせや確認もままならないとか、選択などの関係からHRを分散するケースも多く、おのずと担任と顔を合わせる機会も少なくなり、直接指導を受けることのできる場もLHRくらいしかなかった。

しかし、十一月一日の国鉄ダイヤ改正により、五能線の東能代着が八時一分になり、以前より十九分早くなったことを機会に、今回の変更が行われたのである。学校側としては今回の変更により、これまでの曜日ごとに日課表が変わる変則的で不安定であった学校生活に、落ち着いた雰囲気を取り戻すことと、SHRで先生が生徒の相談にのったり、アドバイスをしたりすることによって、生活指導が一層充実し、適正なものになることをねらいとして新日課表の改定を行ったものである。

あいかわらずのノンビリ登校…遅れるぞ

一日秋大生気分で
秋大鉱山学部見学会

九月二十三日、秋田大学鉱山学部の見学が行われ、本校の二年生希望者六十名が参加した。これは見学を通して理学部についての理解を深めるため、毎年行われているものである。

見学は二班にわかれて、校舎改築中の採鉱学科と鉱山地質学科を除いて実施された。今まで理学部系を志望していたものの、詳しい授業内容などを知らなかった人が多いらしく、教授が説明する度に低い感嘆の声が洩れたりした。また、四年生の卒業論文のための研究の場をかいまみたり、大学の雰囲気に接し盛会な学生会館で学生にまじってとるなど、つかの間の見学を味わったりもした。

見学を終えて「地元の大学だから名前だけなら知っていたが、学習内容などは全く知らなかった。おもしろそうな実験などやっていて興味がわいた。」という感想が聞かれ、参加者は初の目的を十分に達成させた有意義な一日を過ごした。

高校生のための
租税教室

去る十一月十八日(火)能代税務署会議室で「高校生の租税教室」が開かれた。この会は、十一月十一日～十七日の「税を知る週間」にちなみ能代山本租税教育推進協議会が主催して「社会に出ずして役立つ税知識～税あれこれ」をテーマに行われた。

参加校は、能代農業高校、能代工業高校、能代商業高校、それに本校の五校であった。この会は総務課長のあいさつの後、所得、法人、資産、間接の各税の説明や、管理・徴収相当の職務内容が説明された。日頃税のしくみや内容についてほとんど無縁な高校生を対象とする教室であるだけに、説明も手心に当たった時、お金を捨った時の税金、さらに生きている親からの財産贈与の場合など身近な例をまじえて行われ、出席者も興味深げに耳を傾けていた。

漁点

▼自ら"落ちこぼれの三匠"と称する、一流写真家の宝田久人氏が去る十一月二十九日、三十日の両日、本校の他能代北、能代工業の写真部の指導のため来能した▼宝田氏は一九四七年富山県に生まれ、高校卒業後東京写真専門学校に入学、一九六七年、写真家の早崎治氏に師事。三年後フリーの写真家として独立し、「世界一周写真武者修業の旅」と称して、七十余ヵ国を撮影して廻っている▼「ニューヨークで撮影中に姉の死の知らせが届いたんだけど、家族の反対を押切り写真家になり、ここまで来たのだから全国で帰るわけにいかず、仕事を続けたら、程なくして、もう一人の姉の危篤の連絡が入ったがこの時も帰れなかった。この分だと親の死に目にも会えないかもしれないけど、自分で決めた道だから最後までその信念を通したいんだ。」指導の合間に宝田氏はこう語ってくれた▼今回の来能動念に宝田氏は本校に、世界を周る各国の人々の風俗を写した写真集『人々』をプレゼントしてくれた。この中の写真を見ていると世界の人々の心の優しさ、豊かさが、ひしひしと感じられる。このことについて、宝田氏は「世界の人々は、自分自身をとても大切にしている。自分を大事に思い、人間としての価値がわかっているから、それ以上に他の人たちを大切に思うことができるんだろうな。」と話していた▼これからの世の中は国際化の道を進むといわれている。その中で、今の私達にはこのことがとても大切なのではないだろうか▼今回、宝田久人氏は、写真の指導のために来能したわけだが、写真の指導だけでなく、これからの世界、国際化の進む世の中で、私達に必要で、かつ大切なものを教えてくれたような気がする▼なお、この宝田氏の写真集『人々』をぜひ見てみたい、と思う人は写真部まで。